

言葉では

入場無料

協力：名古屋学芸大学

歌人 鈴掛真 × 名古屋学芸大学 映像メディア学科

協働プロジェクト展

伝えきれない

プロジェクトメンバー

「学生」
日下凌
成田開
安齋萌実
磯谷優希
一木懂子
大島涼花
木村瑠花 + 黒澤さくら
熊谷百花 + 林芽生
繁田佳奈
土井美奈 + 原本さつき
永田有紀
中附季世乃
西尾秋乃 + 宮崎那奈子
長谷川隼斗
久田維香
松浦貴斗
榎丸裕貴
濱崎瑛至

「教員」
小笠原則彰
伏木啓
岩野一郎
村上将城
松浦拓也
土屋花琳

感情に

www.kasugai-bunka.jp

2020 2/9(日) — 3/8(日) 10:00 - 17:00 (入場は16:30まで) ※月曜休館 (祝休日の場合は翌平日)

耳をすまして

会場

文化フォーラム春日井・ギャラリー

〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町5-44

主催・問合せ

公益財団法人かすがい市民文化財団

TEL:0568-85-6868

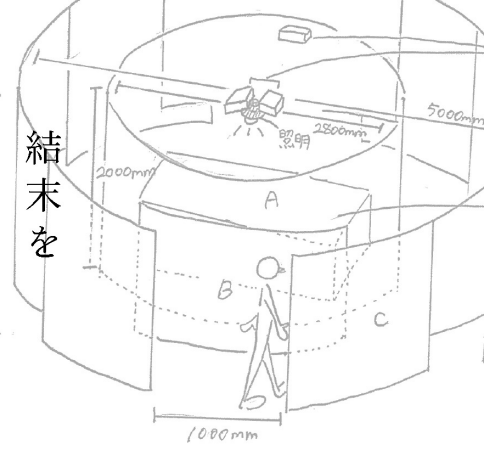
見えてきたもの

言葉では伝えきれない感情に 耳をすまして見えてきたもの

『言葉では伝えきれない感情に耳をすまして見えてきたもの』は、春日井市出身の歌人・鈴掛真さんが、母校である名古屋学芸大学 メディア造形学部 映像メディア学科の学生たちや教員陣を含めたプロジェクトメンバーと共に作り上げる展覧会です。2019年に青土社より刊行された鈴掛真さんの第一歌集『愛を歌え』の中から、学生が各自で選んだ短歌をそれぞれが解釈し、作品として再構築。また『言葉とイメージ』という観点から、自らテーマを設定し、作品制作に挑んだメンバーもいます。

鈴掛さんは「ポップスとしての短歌」をセオリーに、20代前半から短歌を書いてきました。鈴掛さんは言います。「幼少期から、絵を描いたり、ピアノで作曲したり、とにかく何かを作って表現したくてたまらなく、大学で様々な創作に触れた僕にとって、あらゆる装飾がそぎ落とされた短歌という定型は、最も洗練されたクリエイションに思えました」。そんな当時の鈴掛さんと同年代のメンバーたちが、すでに完成された「短歌」という作品に、映像や視覚表現はどのように対峙しうるのが、という問いに真剣に向き合いました。その結果を展覧会という場でシェアし、みなさんと共に考えるのが、このプロジェクトです。

見ないで席を
立ったなら
映画は終わる
ことなく続く



(すずかけ・しん) 1986年2月28日生。愛知県春日井市出身。東京都在住。ワタナベエンターテインメント所属。名古屋学芸大学メディア造形学部卒業。短歌結社「短歌人」所属。第17回 高瀬賞受賞。広告会社でコピーライターを3年間経験後、作家業に専念。著書に、歌集『愛を歌え』(青土社)、エッセイ集『ゲイだけど質問ある?』(講談社)、フォトエッセイ『好きと言えたらよかったのに。』(大和出版)がある。

鈴掛真 在廊日

在廊日に限り、歌集『愛を歌え』(サイン入り)を販売いたします。
2月9日(日)・29日(土)・3月1日(日)・7日(土)・8日(日)
※時間によって在廊できない場合があります。あらかじめご了承ください。



脇腹に
触れるつめたい
君の手が
輪郭として
ずっと消えない

関連イベント 初めての短歌ワークショップ

要申込

日時：3月1日(日) 10:00 ~ 12:00
会場：文化フォーラム春日井2階・会議室
対象年齢：高校生以上
参加費：500円
定員：20人程度(先着順)

5・7・5・7・7の短い詩『短歌』を作ってみませんか?短歌の成り立ちから、鑑賞・創作のコツまでを、鈴掛真さんが伝授します。初心者さん大歓迎!

[申込方法] 件名を「初めての短歌WS」とし、本文に氏名・年齢・住所・電話番号・メールアドレスをご記入の上、メールでお申し込みください。[申込先] ws3@kasugai-bunka.jp [申込期間] 2月9日(日) 10:00 から申込み開始。定員に達し次第締切。2月23日(日・祝)までに、結果をメールでお知らせします。

主催・問合せ

公益財団法人
かすがい市民文化財団
www.kasugai-bunka.jp

〒486-0844
愛知県春日井市鳥居松町 5-44
文化フォーラム春日井
TEL：0568-85-6868
FAX：0568-82-0213

